

脳脊髄液減少症について

1 脳脊髄液減少症とはどんな病気

交通事故による頸椎捻挫（鞭打ち症）やスポーツ外傷の後遺症、転倒事故等、体への衝撃によって脳脊髄液が漏れ続けることにより、長期間にわたり立位や座位のときに激しい頭痛やめまい、吐き気、全身倦怠感、記憶低下などのさまざまな症状に悩まされる病気です。

髄液は、血液から作られる無色透明な液でクモ膜下腔を循環しており、脳や脊髄を衝撃から守ったり、脳や脊髄の機能を正常に保つ働きがあります。

2 脳脊髄液減少症の症状

多種多様な症状が出るのが大きな特徴です。

- 頭痛
- 目の奥の痛み、視力低下
- 動悸、息苦しさ、腹痛
- 回転性のめまい、動揺感、ふらつき
- 喉の奥の違和感、声が枯れる、物が飲み込みにくい
- 頸部・背部の痛み
- 腰痛
- 吐き気、疲労感

3 主な原因

- 転倒事故
 - ・尻もちをついた。 ・転んで頭を強く打った。
 - ・学校の廊下で転倒した。
- スポーツ外傷
 - ・ボールが頭に当たった。（野球やバレー等のボール）
 - ・テニスのラケットが頭に当たった。
 - ・試合や練習中に生徒同士が衝突した。
- 交通事故によるむち打ち

4 学校などで求められる対応

- 事故が発生した後、児童生徒等に頭痛やめまい等の症状が見られる場合は、速やかに医療機関を受診させてください。
- 原因不明で治療などを受けていない児童生徒や保護者には、「脳脊髄液減少症」という病気があることを伝えてください。

